

## 令和6年度 第1回山口県障害者施策推進協議会 概要

◇日 時：令和6年9月5日（木） 13：30～14：50

◇場 所：山口県庁4階 共用第2会議室

◇出席者：別紙「出席者名簿」のとおり

◇経 過

### ■開会あいさつ（國吉部長）

### ■審議 1、2

○障害者支援施策の推進について（「やまぐち障害者いきいきプラン（2018～2023）」の主な実績）

○障害福祉サービスの提供体制の整備について（「山口県障害福祉サービス実施計画（第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画）」の実績）

資料1及び資料2に基づき、事務局から説明

### 【新田委員】

○ あいサポート企業・団体の認定を受ける企業・団体のメリットは何か？

⇒＜藤本主査＞

あいサポート企業・団体の認定を受けられると、県のホームページで公表し、認定を受けた年の授与式で知事から認定証を授与する。

認定時にステッカーも交付するので、障害理解・配慮を行う企業・団体であるということそのが利用者・顧客から見てもわかりやすいというのがメリットと考えている。

○ 資料2の「就労定着率が8割以上の事業所を全体の7割以上」とする目標という部分で、一般就労に移行しても企業もどのようにサポートしていくか難しく、うまくいかないというケースもきく。定着率を上げるために県としての取組があれば教えていただきたい。

⇒＜金子班長＞

一般就労につながったあとのフォローについては、主には今回欠席されているが労働局が対応していくこととなる。県の取組として、就労系のサービスを利用された方が一般就労につながった場合、障害福祉サービス実施計画にも記載している就労定着支援事業を利用したきめ細かなフォローを行う、また、障害者就労・生活支援センターでも就労後の取組に対する支援を行っている。

### 【田中真委員】

○ 就労定着が大きな課題と感じている。就労定着支援事業が始まったが、この事業の利用者が少ないという点に驚いている。また、就労定着支援事業所自体が少ない印象がある。事業所が少ないから定着支援事業を使えないのかなと感じている

就労定着という点からは本人が望まないサービス利用できないという面もあるが、自分の苦手を把握したうえで、支援してもらい安定して働いていくということが重要ではないかと考えている。

もちろん、職場の理解が足りていない部分もあるので、あいサポート企業・団体も含め、社内の障害理解の促進も重要であると感じる。

【松田会長】

- 今の意見を踏まえ、事務局で検証し、新たなプラン、計画に生かしていただきたい。

### ■審議3

#### ○障害者支援施策（「やまぐち障害者いきいきプラン（2024～2029）」）に係る今年度の主な取組について

資料3に基づき、事務局から説明

【宮原委員】

- あいサポーターの目標9万人ということで、県内の人口約130万人のうち、現役世代を90万人程度と見積もると、目標9万人は現役世代の10人に1人となる。あいサポーターが10人に1人は少なすぎるのではないかと思うがどうか？

あいサポート認定企業・団体の従業員は、研修を受け、あいサポーターになるのか？また、若年あいサポーターはあいサポーター9万人に含まれるのか？

⇒＜金子班長＞

県内の障害者手帳所持者に相当する9万人を目標としている。前プランでも目標としているが達成できなかった。障害理解・差別解消をすすめる協議会もあるのでそちらのほうで具体的な取組の御意見をいただきながら、進めていきたいと考えている。

あいサポート企業・団体については、企業・団体のなかで研修を開催していただきたいという趣旨をお願いしており、企業・団体において、社員・会員向けに研修を実施されているので、自動的にあいサポーター数にカウントされるようになっている。若年あいサポーターは、あいサポーター9万人の中に含まれている。

- 授産製品連携販売について、平時から週1回でも簡単な販売スペースを設けて販売するなどの考えはないか？

⇒＜松浦班長＞

催しを実施すると、知名度も上がるため、利用者の訓練も積み、社会性が上がるという面はある。今年は3回実施予定としている。毎週となると対応できるかどうかかわからず、難しいと考えている。場所や地域のバランス、事業所も普段の作業もあるため定期的に対応できるかどうかなど考えることが多い。できたらいいという

気持ちはあるが難しい。

#### 【中川委員】

- 高次脳機能障害の人数をどのように把握されているのか。病院はいわゆる高次脳機能障害のある方という認識はあるが、医学用語とは異なるので、行政用語と医療用語が結びつきづらいついて感じている。患者の団体からも高次脳機能障害と医療の診断をどのように考えたらいいかと相談されることがあり、説明できるような体制をとっていただけるとよいついて感じる。

#### ⇒<金子班長>

県・全国の値は把握できていない。国は高次脳機能障害の診断基準を定めているが、医療分野の基準、行政分野の基準など異なっていると思う。少し古くなるが、平成19年、20年に国が福岡県で行ったモデル事業の実数調査での推計では、福岡県で120人から150人、人口10万人当たり2.3人の新規発症というデータがある。当時のデータを当てはめれば、山口県では約30人となるが、実際はもっと多いのではないかと考えている。

昨年度の相談実績は約1,500件あったが、そのうち、新たな相談者は29人であった。過去5年間で見ると、30~40人くらいの新規の相談者がいたことを考えれば、10万人当たり2.3人よりは多いのではないかと考えている。委員ご指摘のとおり支援施策を進めるに当たり、センターと相談しながらどういった形で県内の高次脳機能障害のある方の人数を把握していくかというのは検討中である。

- 文化芸術活動に秀でていて障害のある方もいる。アール・ブレットなどでも、注目されており、ぜひ普及させていっていただきたい。

#### ⇒<松浦班長>

県庁の1階ロビーでも障害のある方の、絵画作品を展示しており、お帰りの際に見ていただきたい。文化芸術活動については、障害のある方の社会参加にもなるし、経済的なメリットもあるので、県として普及できることはないかと考えている。

#### 【宮川委員】

- マルシェは、自分の名前・事業所を登録して、自分が作ったということがわかるようにして、地域の販売所・朝市などに出荷するというのはあまり手もかからずよいのではないかと感じた。

#### ⇒<西野課長>

生産する側の顔が見えるような、普段からの工夫した取り組みが伝わるように、生産物だけではなく事業所の雰囲気が伝わるような工夫をして展示されていると考えている。ぜひ、近くでマルシェが実施されていければ足を運んでいただきたい。

## 【永田委員】

- マルシェについて、昨年度実施された3回全てが寒い時期にされている。集客数等を検討したうえでこの時期に開催されているかが気になった。例えば、人が確実に集まるようなレノファの試合があるときにいくつかの事業所に出店してもらえないか。レノファの社長は、放課後等デイサービス事業所を経営されており福祉に関心のある方だと思うので、そういったところでのコラボもあるのではないかな。

⇒<松浦班長>

マルシェは、商品の中には障害者施設が作っている野菜があり、野菜がそろうのがどうしても冬になってしまう。県ももっと早い時期にできないかという提案もしているが、早い時期にすると出せる野菜がなく、どうしても冬にせざるを得ない。レノファなどとのイベントとのコラボレーションには、場所や駐車場の確保、混み具合など検討することも多いが、機会があれば実施していきたい。

- ICTサポートセンターで、37回開催されているが参加者数について伺いたい。

⇒<松浦課長>

年度途中で数字は把握できていない。

## 【大倉委員】

- あいサポート運動について、人数も大事だが質の向上も重要。所属している県社会福祉協議会もあいサポート企業・団体になっているが、1回職場内研修であいサポートについて学んだがそのあと職員全体で学ぶという機会を設けることができていない。

県社協でも動画聴講を研修の一つとしており、あいサポート研修について学べるような初任者、中級者向けの短めの動画を提供いただけると職場でも周知できるので良いのではないかと思った。定期的に受講できると質の高い応援団ができるのではないかと感じた。

⇒<金子班長>

あいサポーターとなった方々、あいサポート企業・団体へのフォロー、何度も学ぶ機会を持ってもらえるよう、動画掲載なども検討しながら今後の取組の充実を図っていきたい。

- マルシェについて、私自身何度も買い物をする事業所があるが、集約してネット販売できるようなところがあれば、もっと手軽に買うことができるようになるのではないかと感じた。障害のある方は対面で販売することにも意味があるということを知っているが、一方で工賃向上ということもあるので、ネット販売ということが実現できれば工賃にも反映できるのではないかな。

⇒<松浦班長>

授産製品のネット販売については、色々研究していきたい。

**【高橋委員】**

- ペアレントメンターの研修会は年に1回しかされていないのか。何回か研修を実施されてメンター活動を広めていただけるとよいと感じている。

⇒<金子班長>

ペアレントメンターになるための技術的な研修は、県が年1回実施している。メンター相談会は各児童発達支援センターなどを中心に各市町の主体で、月1回などかなりの頻度で開催している。

**【松田会長】**

- たくさんのご意見、ご質問をいただいた。事務局においては、これらの意見を踏まえて今後の取組をより充実させたものにしていただきたい。

**■閉会あいさつ（西野課長）**

(以上)